

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	コロナ禍を生きる人と、ともに歩む看護職として
別タイトル	Living in COVID 19 and nursing as living together in COVID 19
作成者（著者）	福島, 富士子
公開者	東邦看護学会
発行日	2021.03.01
ISSN	21855757
掲載情報	東邦看護学会誌. 18(2).
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	巻頭言
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD02765946

コロナ禍を生きる人と、ともに歩む看護職として

Living in COVID-19 and nursing as living together in COVID-19

東邦看護学会 理事長

福島 富士子

中国から始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は1年を経過したいま、2度目の緊急事態宣言が発令され、「東京都で今日、新たに2001人が新型コロナウイルスに感染していることがわかりました」などと、毎日ニュースで報道される危機的状況になっています。

病院、地域の現場で働く看護職は、緊張が続き、疲労を重ねられている日々であると存じます。皆様の日々の活動に心から感謝申し上げます。

看護系大学もまた、対人支援を担う職種の育成に不可欠な臨地実習が7割近くの学校で実施できていない現状にあり、いままでにない教育のあり方、方法を日々模索している最中です。患者さんの身体に触れ、言葉を交わし、向き合うことで得られる体験ができないことは、看護教育にとってはいままでにあり得ないほどの、大きな衝撃です。しかし、そのような中にありながらも、看護学部、健康科学部とも、東邦大学の病院で実習を受け入れていただいていることは本当にありがたく、心から御礼を申し上げる次第です。

世界的にグローバリゼーションの拡大の中、人やモノも国や地域を超えて、社会的にも経済的にもつながりが一挙に広がっています。その中で、今回の感染症 COVID-19 は、人間中心の利益を尊重してきた社会から、新しいインクルーシブな、生態系や、地球環境を重視する社会へのパラダイムシフトが求められているのだともいわれています。東邦の理念である、“人間は自然界の一部であり、謙虚に生きる”という「自然、生命、人間」の教えがいまこそ輝く時であると考えます。

人と人との関係を重視する看護の世界で、このようなコロナの世界の蔓延は、人と人とのネットワークを分断するものとなっていますが、インターネットを活用し、オンラインによる交流などをさらに活用し、看護学会の会員の方々とつながりを持続、発展させていくことが重要だと思います。

COVID-19の終息が見通せない中でも、否、見通せない中であるからこそ、東邦看護学会は、これからも看護実践に基づく研究を行い、実践に役立つ仕組みを可視化し、知見を積み重ね、さらに看護実践と教育を高めていくことに、寄与する学会でありたいと思います。三病院と大学を軸に、多くの看護に関わる方々と話し合い、ともに新しい時代の看護のあり方を探求し、東邦看護学会を発展させてまいりたいと思います。今後とも本学会に変わらぬ、ご支援、ご指導をよろしく願い申し上げます。

2021年3月吉日
